教え方講座

・・・というか、

教え方がヘタクソな、あなたへ

hirofumi

はじめに

斎藤一人さん曰く。
「人に教えるということは、同じ人に同じことを４００回いえるかどうかにかかっている」

人間社会は、絶えず、教える・教えられる、といった状況が日常的、、、ホント、日常的に行われているのですが。
仕事上の上司、自動車教習所の教官、大工の棟梁、学校の先生、相撲部屋の親方、等々。

教え上手とは、コミュニケーション上手の別名、でもあります。
すなわち、人間社会を営む、基本中の基本。
でも人間社会は、未だ、ニュースを見れば事件は絶えないし、問題は山積み。
まさに「教え方」がヘタだったがゆえに。

要するに、人生全般になんらかの悩みがある場合、それにちゃんと対応できる術を備えているか、もしくは、それにちゃんとした答えを出してくれる指導者がいるのかどうか。

自分にその術がない場合、どうしたって社会の中の他の誰かに教えを乞うことになります、その道の専門家か上司か、自分が頼りにしている先輩、とか。
でも、そういった、いわゆる指導者の力量がまったくない場合、事態は、より深刻な状況を呈してしまう、かもしれません。
教える・教えられる、それらの日常の連続が、実は自身の人生を有意義に展開できるかどうかの要、といっても過言ではないのに。

だからここで、あらためて、人生のあらゆるステージで、いかに「教える」ということが重要か、そしてどうやったら、よりうまく「教える」ことが出来るのか。

とことん考察してみたいと思います。

１　躾ける、という言葉

躾ける、という言葉。どういうときに使いますか？
だいたい真っ先に思い浮かぶのは、親が子供に行うこと、とか、他には犬猫等にトイレの場所をうながす、とか。

さて、その躾ける方法について。
数年前、２～３歳の幼児をその親が体罰で死にいたらしめた事件が発生、その際、親が放った一言が「躾けのため」と暴力を肯定。
大半の人は、その幼児虐待を行った親を、人間のクズ、と蔑んだことでしょう。

さて、そこで。
躾けの方法に暴力は含まれるのか。
その暴力の程度は、如何に？
先ほどのクズ親の擁護をするわけではありませんが、確かに、自分たちは第三者として、そのクズ親の教育現場をつぶさに見ていたわけではありません。
もしかしたら、幼児とはいえ、とても聞き分けのない子で、親はその子を躾けるたびに、尋常ではない反発をくらっていたのかもしれません。

まあどちらにしても。
殺してしまっては、それは結果論として処理されます、そこまでに至る経緯はどうでもいい。
つまるところ、暴力が、躾される子供の命を脅かすレベルであった場合、もう親は、親として失格です。
最近の「躾ける」という言葉は、「暴力」という言葉をオブラートで包み込むようなワードといっても差支えないのではないでしょうか。
極端に殺すところまではいかなくても、躾けと称して、犬猫等をひっぱたく飼い主もいるでしょうし、中高等の教育現場では、未だに表面化していない体罰など、まだまだある気がします。

さて、そこで行われる、躾る立場における心理状態とは、いったいどんなものなのでしょう。

なにも小難しく考える必要はありません。
その躾ける側に、その躾けようとする対象に、愛があるのかどうか。
もしそこに愛がないのなら。
愛がなくて、躾ける、という行為は。
実は、そこで、躾けようとする人間の、目的とする事柄が１８０度変わってくるのではないでしょうか。

あえて極端なことをいえば。
かつてアメリカ人（白人）が黒人を奴隷としてこき使う、という状況と、何ら変わりない気がします。
アメリカ人が、黒人を躾けて（鞭でひっぱたいて）それで喚こうが死のうがお構いなし。
そして、そのアメリカ人の理に叶った黒人は、奴隷としてこき使われる。
その際、途中で病気になろうが老いぼれようが、理由はどうあれ、使い物にならなければ捨てられる。

とまあ、愛のない指導者は、躾けられる側を奴隷としかみない、のではないでしょうか。

２　教えるという本来の姿勢

教える、教えられるということは、すでにみなさん、多かれ少なかれ、経験していることだと思います。

僕は昔、ダンプ仕事（！？）に就こうとしていたことがあるんです、が。
その時の指導教官がある意味厳しく？ことあるたびに怒鳴りつけられたあげく、数日でリタイアしてしまいました（笑）

ワタクシ、リタイアした時点では、その指導教官（４０代の元ヤン）に対し、せっかく指導してもらったのに、結局こちらが使い物？にならなくて申し訳ないなあ、と一瞬は思いましたが、その方は、最後までこちらを罵倒し続けましたので（苦笑）まあ、あれ以上、こちらも自分自身を嘆くことはしなかったかな。

ということで、自分の経験？をもとに、その当時の教えられる側としての、そのダンプ教官のマズい点を挙げつらってみたいと思います。

その元ヤンさんの場合は、
★なんといっても、一回で教えたことが出来ないと、すぐ怒鳴る。
★元々、自分の先入観や偏見でこちらを見ていて、初心者相手に知識がないことをバカにする。
★最初、僕はメモは取ろうとしなかったんですよ、それは唯一、こちらに非があったと思っています。
でも、そのことを指摘されてからは素直にメモを用意して臨んでいたのに、その後もことあるたびに、最初にメモを取らなかったことを引き合いに出しては「この仕事、ナメてんだろ、
ゴラッ！」ってな始末・・・

要するに、こちらと終始、信頼関係を結ばない上に、いつまでもこちらの過去の失敗を（教える側が）引きずる。
《まあ、性格はちょっと神経質な人だったかな》

僕自身は、教えるのも教えられるのも、それなりに我慢強い方だとそれまで自負していましたが、さすがにあれではギブアップするしかない、と思いました。はい、愚痴でございます(T_T)

さてさて、この元ヤン指導教官さんは、教えるということに対しての姿勢がどうだったのか、というと。

一言で云えば、怠慢、です。
元ヤンさんは、教えるということに対しての覚悟が全く出来ていなかったと思います。
すなわち、教えられるより、教える方が大変で当たり前、だということを。
その事に対する準備をしていなかった、実は教える方が教えるということをナメていた。
しかも最悪なことに、その自分の不備で起こった問題や責任を、全部こちら(教えられる側)に押し付けた。

教育・指導する、されるという中で問題が発生する場合、実は指導者が怠慢であることを棚上げし、研修生や見習いのヤツらが無能、といった感じのレッテルが貼られるケース、案外あるんじゃないでしょうか。

ホントはですね、僕のようなダメ人間（笑）を一人前にすることこそが、指導する側としての一番の醍醐味なんじゃないでしょうか。

いろいろ突っ込みを入れられる前に、もっとも大事なことを云っておきます。
僕は当時、ダンプの仕事に関しての能力は劣っていたかもしれませんが、教えられる側として、少なくとも姿勢はとても真面目に取り組んでいた、ということです。

教えられる側が、不真面目とか、本当にナメた態度で接してくる場合は、教える側もサジを投げて当然、とは思います。

※一応ここでは、教えられる側が真面目に取り組んでいる、という前提での話になります。
でも、教えることが上級レベルになるならば、真面目ではない（やる気のない）輩も相手にすることになりますが。
そういった相手の指導方法？については、また後ほど。

３　体育会系のノリ？

最近は、某女子レスラーに対するパワハラや、相撲関連の暴力沙汰等、いわゆる体育会系のノリ？の百花繚乱といった趣があります。
いやいや、最近のマスコミが騒ぐ以前から、元々、体育会系のノリ？というものは、妙な普遍性があるように思われるんですがね。
いわゆる学校の運動部活のレベルでも、スパルタ指導は当然のごとくおこなわれ。
刑務所の囚人ばりに、グループ内の一人にでも問題があれば、連帯責任だのと理不尽にあつかわれ。
昔は、日照りの下での運動も、易々と水を飲ませない（最近はさすがにそんなことはないのかな？）とか。

さて、そんな体育会系のノリ？というものは、どうして昔から根付いているのでしょう。
よく、伝統だとか文化だとか、そういった言葉を引き合いに出して、体育会系のノリ？を肯定する輩はいます。
でもよく考えて、あらためて伝統・文化というものを例を挙げて紐解くと。

☆人喰い
☆ギロチン
☆割礼
☆切腹
☆身分の差別
☆不倫？

等々
・・・野蛮なモノもけっこうあるようです（笑）
さて、では上記に挙げたような伝統・文化については、なぜ、だんだん消滅・衰退しているのか。

まあ、こちらの論を待つまでもないですね、人間社会がどんどん成熟していく過程で無くなっている、ということです。
ひるがえって体育会系「文化」の場合、その文化を文化たらしめている指導者(野蛮人)が、その文化・伝統を盾に、実はいつまでも居心地良くふんぞり返れる場所を手放さないでいることが、かえって傍目からは普遍的な体をなしている、といった感じではないでしょうか。

でも今後は、パワハラという言葉や、ネットを通じての告発で風通しが良くなっていく中で、体

育会系という悪しき文化も、だんだん淘汰されていくことでしょう（かね？）。

では、その時の指導者はかくあるべきか。

威張らず、怠慢であるなかれ、です。

４　一般的な仕事での指導方法

仕事をこなすことがそれなりに一人前になった段階で訪れる立場。
新たに入った新人さんに指導する、という立場。
みなさんは、そんな立場になった時、どんな気持ちになるのでしょうか。
僕は、結構テンション高めです（笑）

ところで、特殊な専門職（例えばドラマに出てくるような医療現場のドクターとか）における指導方法とは、いったいどんなものなのでしょうか。
例え難しい危険な仕事でも、「基本」はあまり変わりないとは思うのですが、、、でも、あまりにも異業種なものについては、もしかしたら僕の見識？は、いともたやすく覆されるかもしれません。

ただどちらにしても、教える立場に立つ人は、まず、十二分に用意周到な準備と覚悟をする必要があります。
準備と覚悟にはもちろんいろいろありますが、おおまかに。

①レジメを作る
　仕事の流れや規模により、相手にメモを取らせることをお願いしてもいいでしょうが、あくまでも相手の理解を深めるためのツールとして必要なのです。本来はなるべく指導する側が用意すべきです。

②相手の力量を観察する
　教えられる立場の方がこちら(教える立場)より能力・経験が上だったりもします。
もしそうだった場合、ますますこちらの指導能力が問われます（笑）
また、相手の姿勢が真面目か、緊張するタイプか、せっかちか等、その性格によっても指導方法や対処は違ってきます。

③教えたいことは、相手が理解するまで何度でも繰り返す。
　よくありがちなのが、教える側の、一回言ったことはもう言わない、です。
最悪です（笑）

④相手の行動を、指導する側が全て把握する。
　②の発展系ではありますが。
よく、教えたことが出来なくて失敗した場合、それを責めることは、別の言い方をすれば、その失敗をするという想定が出来ていなかったことであり、相手の行動をちゃんと把握出来ていなか

った、ということです。
それが出来ていれば、ただただ、しっかりフォローするだけで済むことでしょう。
仮に、指導していく中で、相手の覚えが相当？悪い（能力が無い）というのであれば、いたずらに相手を責めることなく、且つ、今後、無理にその仕事に就かせないといった判断も、指導者の側がしっかりやります。

⑤相手を誉める
　これはいわずもがな。褒めて且つ、威圧しない。そうすることでいたいけな？研修生の学ぶ意欲（パフォーマンス）はいや増すことでしょう(^^)

だいたい、こんなところが必要な準備と覚悟、といったところでしょうか。
そして、文字にすると数行で終わってしまう、この準備と覚悟、実際に取り組んでみるならば、とってもしんどいしんどい(*_*)
とにかく、とても我慢と忍耐が必要であります。
そして、意外にも、教える側の、自身の劣等感との闘い、でもあります。

でも、これが本来の、人間が人間たる、成熟した指導者たるもの、ではないでしょうか。

繰り返しますが、なにか問題が発生した時は、いくらでも相手に責任をおっかぶせられるんです、教える立場にいる者は。

そして。
本来は教えてもらうことに感謝の意を持たなくてはいけない、教えられる立場の方は、それでも教えてもらう過程で、もし、何か理不尽に感じる場合は、がんばって、その辺をよくよく見極めて、その至らない？指導者に進言する行動が必要ですね。

教える立場の人間が、ハッキリいってヘタクソ（クズ）の場合、そんな人間にいつまでも関わることのないように。
そんな人間は、よくこちら（教えられる側）を責めまくります。
そんなことに間違っても感化されず、クヨクヨしないようにすることです。

だってあなたは自分なりに真剣に教えを乞いて取り組んでいたんですから。
その上で起こした失敗は、奪って論ずれば指導者の責任です。

場合によってはパワハラで訴えたり。
とにかくめげずに逞しくいきたいものです（笑）

ちなみに、「仕事は見て盗め」とかいう人、いませんか？

それは犯罪です（笑）というのは半分冗談として。
仮に、教わる・教えを乞う相手が、見て盗むぐらいの意欲がちゃんとあっても、教える方は横着しないで教えればいいんです。
競合他社？でない限り、仕事は見て盗め、なんて本気で思っているのは、こちらから云わせれば、単にコミュニケーション下手か、ゴーマンかましているだけの前時代人（野蛮人）ですね。
別にそういう「文化」を無くせ、などとあからさまに云うつもりはありません。
が、あっても無くても、いずれにせよ、その「文化」を、無駄に高尚に持ち上げる必要はない、ということですね。

５　学校教育について

自分の時もそうだったんですが。
幼少はお受験、また小学校の時分から、進学塾なんかに通わされて。
昔も今も、より良い学校、より良い高校・大学を求めることは現代社会に有ってつきもの。
東大ブランドは未だに健在で。
今では、お隣の韓国が、ある意味、日本以上に受験戦争が激化しているんだそうで。。。

みなそれぞれ、思うところは千差万別なのですが。

でも、ここで。
あえてここで、月並みではあるけれど、学校教育というものの、一つの「真実」を述べてみましょうか。

よく、「読み書きそろばん」なんて、日本では言いますね。

まさにそれに尽きます。

本を読むことが出来て、字が書けて。
そろばん、でなくとも電卓が弾けて。日本の教育では、一応、九九（掛け算）を習って、足し算引き算が出来て。
あと、個人的には、小４ぐらいでお裁縫（ボタン付け）と、ゆで卵のつくり方を習って（笑）

上記で述べた数行は、全部、小学校で教わるんです。

ハッキリ言って、小学校で習ったことだけでもちゃんと出来れば、十分、現代社会で通用します。

なのになぜ、日本人のほとんどは、高校、大学等の、いわゆる義務教育以上の英才？高等？教育を受けたがるのでしょう。
（ここでは自ら意欲的に学びたい、という人たちは省きます）

極端な高学歴社会の果てに、その栄光を勝ち取った（というか、その波にのまれた）者たちの中に芽生えたイビツな感情は、すなわち、選民思想(俺様は特別な人間、てやつ)です。
もっと極端にいわせてもらえば、そんな連中が、典型的な大企業？のお偉いさん、または官僚や政治家になって、日本の中枢を担う。

バブル崩壊以後の名だたる企業の倒産、銀行の再編、そして戦後から現在の、思考停止した与野党をつぶさに見渡せば、偏見を持たずしても、こりゃ、日本は危ない、となります（笑）

別に教育改革をどうたらこうたら、と云うつもりはありませんが。
つまらない、無駄なプライドやこだわりさえ無くせば。
いっぱしに「学歴」がないと社会でやっていけない、などという思い込みが、単なる幻想に過ぎないと理解出来れば。
底なしの不安に苛まれるは昔。

とにかく、「読み書きそろばん」が出来るようになった時点で、自分でしっかり考える必要があります。
逆にいうなら、自分が主体的に、しっかり将来を考えるために身に付けておくべきものとして、最低、「読み書きそろばん」が必要、ということです。

学校の先生は、とにかく生徒に、「読み書きそろばん」を教えることこそが、最大の使命と思います。

教える過程で、その結果として。
挫折、登校拒否、引きこもりになったとしても。

大いにけっこう。

今の学校教育の問題は、いろいろあるように思わされている気がしますが、とにかくいろいろな事柄に惑わされることなく、「読み書きそろばん」を軸に、その先生のお立場で自信を持って教育を推し進めればよい、そして生徒は、そんな先生からしっかり学んでいけばよい、と思うのですがね。

シンプルイズベスト、ということです。

６　親と子の関わりについて

テレビドラマ『コンフィデンスマンJP』のダー子曰く。
「家族だから分かり合えるなんておとぎ話。親殺し子殺しは太古の昔から続いている。家族なんて幻想なの。ボクちゃんだって身に染みて知っているはずでしょ、世の中にはろくでもない親が幾らでもいるってさ。」

のっけから極端な前フリをかましましたが（笑）

現在、政府は、少子高齢化を「問題」と見なしているようですが、結論からいいますと、全く問題ではないです。

逆にこんな「少子化」風潮に惑わされて、親になる必要のない輩がどんどん「親」として排出されている気がします。

結婚すること。
子を作り、親になること。
それはゴールではなく、選択、です。

まあ、子供がほしい、親になりたい、その環境は整っている、ということであっても、もっとも肝心な、その人自身が親になる「資格」がない、といった場合もあるわけで。

「教え方講座」も最終段階に入りました。
はい、その究極はやはり、親の子育てです（笑）

個人的に、というか、おそらく誰にとっても、本来は、子育てについて他人さまに語るなどということは、ヤボ中のヤボでございます。

ですが。
子供を教育する（教え育てる）ということは、おそらく、教える技術そのものが、最上級（！）なものでなければ勤まらない、と思われますので。
なにせ相手は、こちらの言うことを聞かない聞かない（笑）

なので。
そういう観点？から、子育ての経験がないワタクシではありますが、ズバリ子育て論を語ってみ

ようと思います（＾＾；

というか、子供が出来てしまったなら、もうしょうがありません、どんな育て方をしようが、その親が自分の思うように育てていくしかありません、子育てを放棄しないというのであれば、そこに他人が入る余地はありません。

ただし、その育て方如何によって、惹起？される子供の成長の結末は、良くも悪くも親は甘んじて受け止めていかざるおえないでしょう。
とにかく、子供から最終的に受け止めるものは、いままで自分が親として彼等に注いできた、あらゆる行為がダイレクトに跳ね上がってくる分、時に非常で残酷かもしれません。

でも、というか、だからこそ、親の育てる姿勢と覚悟はとことん問われるのです。

ここでまた、極端な事例ではありますが。

かつて幼女誘拐・殺人を繰り返し、死刑になった宮崎勤。
その父親は、犠牲者家族に全財産をなげうった後に自殺。

かの織田信長は、父・信秀の死に際し、その葬儀での位牌に向かい、猛烈に罵った、という説があるとかないとか。

個人的に知った事例で。
幼稚園から、お遊戯で鹿のお面を書くように言われ、奮起する子供。
自分がお面を作りたいのに、そこに父親がでしゃばる（父親がお面の絵を描く）。
子供は、それが不服ではあるけれど、「おとうさん」には、普段から逆らえない雰囲気があって。
結局、子供はそのお面を付けてお遊戯に出る、という・・・そういう育てられ方をする子供は、後々どうなっていくものか。

先日亡くなった高畑勲さんもアニメーションで取り上げた、日本の最古の物語である、竹取物語。
あの物語では、翁（父親）が、かぐや姫（子供）の為、といいながら、まったく姫の気持ちを慮ることなく、いろいろと突っ走る物語、といった側面もありまして。
自分に子供が出来た時の、親になった時の典型的な展開？なんでしょうか。
そんな親は、とかく浮かれてしまっている分、子供の気持ちには無頓着・無神経になりやすい、のでしょうか。
暴力・虐待は、ある意味、わかりやすい。

でも、「あなたのため」と言い放って行う行為が、本当にその子供のためなのかどうかは、結構わかりにくいのではないでしょうか。

ヘタクソに教え育てるとはどういうことなのか、という鍵が、実は「そこ」にあるとワタクシ、思っております。

武田邦彦さん曰く。
「親と子の間に３０年ぐらいのジェネレーションギャップがある（要するに親と子の間で分かり合えないことはいっぱいある）のは当然なのに、もし親がそれを理解せず、子供に自分の考えのみを押し付けた場合、子供は、他の子供と３０年のギャップをかかえたまま、過ごさなければならない（趣旨）」
もしそうなら、素直で従順な子供であればあるほど、その育て方如何によっては、後々深刻になってくる、かもしれません。

結局、自分にとっての「子供」にしても「部下」にしても。
上下関係ではなく、本来は対等、ではないのでしょうか。
自分の思うように動かすためではない、相手の自主性を育ませる為には。

それを踏まえて、あらためて上に立つ人間が心がけていくべきこと、とは。
相手（部下や子供）とは本来、本当の所は分かり合えない？といった謙虚さと、且つ、それでも相手の人格を尊重して分かり合おうとする努力と、その上でずっと関わりあうのであれば、愛情をもって信頼していくに尽きる、のではないでしょうか。

まあ、それが簡単に出来れば苦労はしない、というワケですが。

でも、だからこそ、上に立つ、親になる、ということに、易々と憧れるものではない、とも云える気がします。

「資格」がないことも別に悪いことではない。

それも一つの選択。

いままでいろいろなことをズラズラと書いてきました。

自分でいうのもなんですが、これを読んで、おそらくそんなことこんなこと、そもそもオマエに

言われる筋合いはない、と思う人たちが大半ではないかと（>_<）

それでも中には、多少、気持ちが軽くなった、などと思ってもらえる人が、少しでもいたら幸い、と思い。
そもそもこれは、数十年前の「自分」に向けて書いたようなもの、といった意味合いもありまして。
もし、そう受け取ってもらえたなら、まあ、ご容赦いただけませんかね。

そして、上に立つ人の見る風景は、家族であれ会社であれ、はたまた国（！）であれ。
それが、もっともっと素晴らしいものになっていくという姿をつぶさに感じ取れるのでは、と思うからこそ、教え育てるということに関わり続けられる、というものではないんでしょうかね。

ということで。

僕にとってもみなさんにとっても。

教える・教えられることで、今後、今とはもっと想像だにしない「風景」を構築されんことを。

おわりに

これを書いている最中に、巷では、某大学アメフト部のタックル問題でけっこう賑わっていて。
いやいや、いろんな意味ですごかったですね、あの監督さんたちの会見（笑）
確かに今、ダイレクトであの問題を拝見すると、テレビのコメンテーター・レベルでのワイワイ？見解しか出てきませんが。
まあ、のちのち振り替えってみる時には、いわゆる体育会系暗部の膿のひとつとして、この事件、カウントされることでしょう。
そうです、今後も日本の各方面でいろいろな膿がさらに出まくって。
そして時代は案外、徐々にじっくり、良い方向に流れていく、のかな？

とにかく、良き未来は良き指導者の手にかかっている、といえるでしょう。
（おおっ、壮大なセリフですね）

最後に。
学校教育は「読み書きそろばん」。
では、親のセオリーは。
はい、「親は無くとも子は育つ」です（笑）
だから、親は、子供に対して余計なことはしないほうがいいんです。
無駄なお金を掛けて、一流？学校にいかせる必要はない。でも、生活保護で子供は育てない。
勉強ができない、とか、学校に行かない、とかで怒る必要はない。
でも、他人に迷惑を掛けることをするならしっかり注意をすべし。
期待せず、落胆せず。
ただその存在を尊ぶ。

そして、分相応をわきまえ、他人の気持ちを考えられる人間に育ってくれたなら。

親は子供から、少なくとも軽蔑はされないんじゃないかな。

教え方講座・・・というか、教え方がヘタクソな、あなたへ

http://p.booklog.jp/book/122362

著者 : hirofumi
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hirofumifumi/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/122362

電子書籍プラットフォーム : パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト